

成果の説明書

(氏名) 森 祐司	(学部) 経済学部 経済学科
1 重要事項 【研究】 ① 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 「地域銀行のコーポレートガバナンス ～持続可能なビジネスモデルの検証～」における第1の研究テーマ「地域銀行の CSR 活動、ESG 地域金融」の研究に取り組んだ。まずは、前年度から作成した日本の地域銀行の CSR 要因の評価データベースをもとに、CSR 動機に着目し、計量分析を行った。同研究の成果は「2023 年度日本金融学会秋季大会」で研究発表した。また、同研究の成果を『九州経済学会年報』から「地域銀行の CSR 活動 ―動機と活動の効果からみた分析―」として論文を発表した (2023 年 12 月) ② 同研究テーマでは共同研究者 (長野県立大学永田教授) と共に、CSR 格付けについての要因分析を行った。同研究の成果は「地域金融コンファレンス」(2023 年 8 月) で発表した。 ③ 同研究テーマでは、さらに「銀行業の CSR ディスクロージャーとガバナンス要因」について、アーク東短オルタナティブ社の玉之内氏と共同で研究を行い、前半部分の成果を 2023 年度日本金融学会西日本部会で「銀行業のサステナビリティ情報開示 ―テキストマイニングを用いた有価証券報告書の分析―」として発表した。 ④ 楽天投信投資顧問の社員とともに組成した研究会で監修・翻訳した Mitchell, Olivia S, Smetters, Kent 著『アドバイスが変える資産運用ビジネス』を刊行した。 ⑤ 共同研究者と参画する基盤研究(C)「地域金融機関のビジネスモデルに関する地域共生から見た検証」での研究では、地域金融機関でのリテール金融サービスを考えるために、わが国の家計のリスク資産への投資動向について検討し、共同研究者が報告する研究会で意見交換をした。 【教育】 ① 担当する「中小企業論」で外部の有識者 (信金中央金庫地域・中小企業研究所研究員の品田雄志氏) を招待し、講演をしていただいた。 ② 基礎演習 におけるゼミ活動の一環として、東京証券取引所社主催「株式学習ゲーム」というシミュレーションゲームを採用し、ゼミ活動のグループワークで取り組んだ。基礎演習であるため、株式投資を通じて、株式会社や企業金融、財務分析にまずは触れて、基礎を理解させることを目的とした。各学生は関心を持って取り組み、非常に多くの学びと気づきを得ることができた。 ③ 演習 I ゼミ生には商工総研「中小企業懸賞論文」に投稿するために調査・投稿論文作成に取り組ませた。 ④ 基礎演習・演習 I ゼミ生と長野県立大学グローバルマネジメント学部の永田ゼミとインターゼミを長野県立大学に訪問して開催した。	
2 その他の事項 ① 学内：キャリアセンター運営委員 (2023 年 4 月～) ② 学外：(公財) 群馬県観光物産国際協会 資金運用委員会 委員 (22 年 10 月～) ③ 生活経済学会理事 (2021 年 6 月～)・生活経済学研究編集委員長 (2023 年 10 月～)	

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では科研費研究 2 つに参画しているため、うまく調整しながら取り組む必要がある。①「ガバナンス」研究の方では、銀行業の CSR ディスクロージャー分析などを研究発表し論文も発表していく予定である。共同研究も論文の投稿を予定している。その他には、取締役の属性、社長（頭取）交代、政策保有株式の動向、自社株買いの動向などのガバナンスに関連の分析に着手し、今年度中に何らかの報告をできるように鋭意取り組んでいきたい。もう一方は研究協力者で、昨年度までの研究と内容的に継続しているので、さらに深化すべく努めていきたい。

教育面では、演習では引き続き学生との対話を増やしながら、分析能力の向上やプレゼンテーション技術を高められるように指導していきたい。ゼミ運営では会社訪問などの学外活動のほか、引き続き株式学習ゲームによる実習、中小企業懸賞論文への投稿、インターゼミを引き続き予定する。その他、研究発表大会への参加、その他の懸賞論文投稿など推奨していく予定である。